

美里町社会福祉協議会 福祉教育推進事業「まなびねっと」 令和3年度 プログラム紹介(福祉・防災出前講座)

1. 全体のねらい

地域の方々との出会い・交流の機会を意図的に設定し、そこから地域生活についての気づきや自分自身にできることを考え合う場をつくることにより、「福祉」に対する理解を障がいのある方々や高齢者のこと」といった狭義の理解にとどまらず『ふだんのくらしのしあわせ』の実現、年齢や性別・障害の有無等にかかわらず同じ地域に暮らしているすべての人々が安心して生活することという広義の理解に広げる。

2. 令和3年度 実施方針

- (1) 社協職員1~2名で行えるプログラムに限定し実施する。
- (2) ゲスト講師(障がい当事者講師等)、ボランティア等の同行・調整を中止。
※当事者不在での疑似体験(白杖、高齢疑似等)は原則として実施せず、当事者の暮らしの様子や児童・生徒へのメッセージをDVDで上映して考えるワークや手紙を贈るなどのリモート交流、オンライン交流をご提案いたします。
- (3) 1回あたりの人数(児童・生徒)は30名程度を上限とし、小学校3年生以上を対象とする。
※プログラムのご相談、ご提供は学年問わず実施いたします。
- (4) プログラムの内容や実施方法については各校と協議の上、3密を避けて実施する。

3. 福祉出前講座 プログラム紹介

《福祉テーマ1：福祉総合》

(1) 「ふくし」ってなあに?(総論) 45分×2コマ

- **ねらい**:福祉は特別なことではなく、「私たちみんなのこと」であることを知る。
「エコマップ」で自分の言葉でつながりを可視化することにより、自分自身も地域の大切な一員であり、支え合いの中で生きていることを意識する。
- **内容**:①導入…ふくしはふだんの くらしの しあわせ
②美里町のこと/人口分布紹介
③個人ワーク(ぼく・わたしのエコマップ/ぼく・わたしにできること 等)
④ユニバーサルデザイン、パラスポーツ、福祉マーク等について情報提供



《福祉テーマ2：多様な生き方・暮らし方(障がい、高齢)》

■ねらい:障がいは身体状況そのものではなく「環境」=暮らしにくさのことであること、自分たちと同じように地域の中で暮らしている中でどんな暮らしにくさや工夫があるのかを出会いによって知り、自分には何ができるか、関わり方・コミュニケーション方法等について考え、実践しようという気持ちを育てる。

(1)「目が不自由ってどんなこと?」(視覚障がい) 45分×2コマ (新)

- 内容:①導入(1回目の授業・買い物をするときに困ることワークのふりかえり)
②「佐藤さん(※)の暮らし」DVD視聴・ワーク
③DVDで紹介した生活サポートグッズなどの紹介、にっこり手紙プロジェクト導入



※佐藤さんは町内在住の視覚障がい当事者。DVD視聴後は児童からボイスメッセージを贈る(にっこり手紙プロジェクト)、サウンドテーブルテニス体験(サウンドボール貸し出し)など。

(2)「耳が不自由ってどんなこと?」(聴覚障がい) 45~60分/45分×2コマ

■内容:

※R3年度 中止

(1)事前学習(DVD教材) ※45~60分間

- ①講師(ゲストティーチャー)との交流の前に、「ふだんの暮らし」の様子を視聴。
- ②講師に聞きたいこと(質問)などを考え、交流授業への意欲を高める。

(2)交流授業 ※45分×2コマ/(1)から1週間以内の実施がベスト

- ①講師(ゲストティーチャー)からのお話
- ②児童からの質問タイム
- ③コミュニケーションゲーム、手話体験など



(3) 障害者福祉協会の皆さんとパラスポーツ体験(身体障がい) 45分×2コマ

- ①講師(ゲストティーチャー)からのお話
- ②フライングディスク/ボッチャ体験・交流

※R3年度 中止



(4) としをとってどんなこと?①(高齢者理解)45分

- ねらい: 高齢者のからだの変化や、こころ・生活のこと(すごいところ、素敵などころ)を考え、地域の中で他者と関わり合いながら生きていくことについて考える機会とする。
- 内容: ①おとしよりってどんな人たち? /ワーク「高齢者のからだところ」
- ②地域の高齢者の皆さんからのメッセージ(DVD視聴)
- ③にっこり手紙プロジェクト導入(高齢者へ手紙を贈る) ※またはオンライン交流



※DVD教材作成協力…ひとり暮らし高齢者、町内高齢者施設利用者(特養・デイサービス)

(5) としをとってどんなこと?② 認知症サポーター養成講座(高齢者理解)45分×2コマ

- ねらい: 認知症についての知識とともに、かかわり方や接し方のポイントについて学び、小学生であっても「認知症サポーター」として他者を支えることができること、「ふくしのまちづくり」の一員として活動できることを学ぶ。



講師: 美里町長寿支援課(行政)
認知症キャラバンメイト(施設職員)

※「老人クラブのみなさんとペタンク交流」/「地域ふれあいコンサート」は中止いたします。

《福祉テーマ3：ボランティアってどんなこと》

■ねらい：ボランティア活動に関する基本的な知識や心構え等について学ぶとともに、身近な地域や生活の中から、広く「福祉」をとらえ、様々な出会いやふれあいを通じた「気づき」から、命やかかわりの大切さについて学ぶ。また、内発的な動機から学びを深めお互いにその存在を認め合い、関わりを大切にしながら生きていくことができる「共に生きる力」を育む福祉学習を実践する。

(1) ちょこっとボランティア体験(中学生) 45分×2コマ

- ①講話「ボランティアってどんなこと？」
- ②ちょこっとボランティア体験(使用済み切手の仕分け)



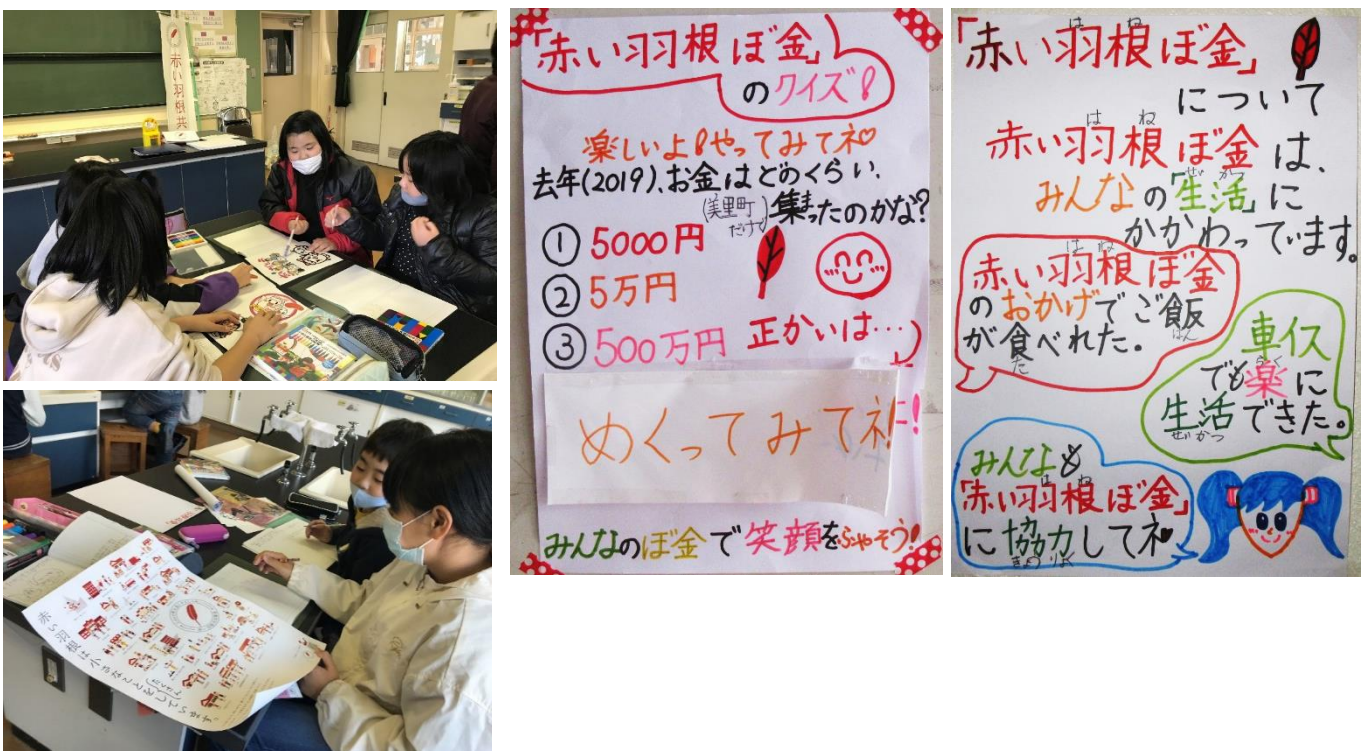
(2) 「赤い羽根共同募金」ってどんなこと？(小学4年生) 45分

- ①「赤い羽根共同募金」について知ろう！
- ②「赤い羽根キッズプロジェクト」導入

※2コマ連続の授業のうち、前半の1コマを担当(共募の意義について説明)。

後半は先生が主導し、募金呼びかけ用のチラシや募金箱を児童が手づくりする。

後日、児童が校内募金を呼びかける。



4. 防災出前講座 プログラム紹介

直近の自然災害について被災地の状況などを伝えながら「備え・防災の重要性」について導入し、「ふだんの暮らしの中で、自分にできる防災」について児童・生徒自身で考える機会をもつ。

また、学校の避難訓練や福祉出前授業の内容と連動させ、自分の身を守る(自助)とともに他者と協力しあって身を守る(共助)ことにも視野を広げ、防災は日常の延長上にあるという意識を高める。

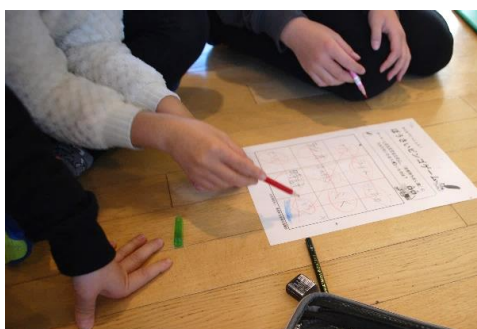
※個人ワークもしくは少人数グループワークを中心とし、自分で考える→話しあう→他者の考え・価値観の多様さを知る機会となれるよう実施。各校と協議の上、実施方法等を検討(基本は小学3年生以上/1回あたり30名程度まで)。

《防災テーマ1：非常持ち出し品(備え)について考えるワーク》

■ねらい：災害で避難をする場合を想定し、「命を守るために必要な備え」について考え、話し合うことを通し、ふだんの暮らしの中で取り組むことができる防災について意識する機会をつくる。

個人 (1)ぼうさいビンゴゲーム(小学校3年生以上) 45~60分

- 内容：①個人で9マスのビンゴシートに「非常持ち出し品」を記入。
- ②情報交換タイム(他者の考えを参考にしながらシートを完成させる)。
- ③ビンゴタイム(社協から提示)、全体共有、まとめ



集団

(2)ぼうさい・ジャンケン(小学校3年生以上) 45~60分 (新)

- 内容：①「非常持ち出し品セット」として6種類程度のカードを提示。裏返しにしておく。
- ②グループを作り、代表者がその場で起立し社協職員とジャンケンをする。
(1グループあたり3~4名程度を想定)
- ③ジャンケンに勝った人はカードコーナーから1枚選んでグループへ持ち帰る。
(あいこ・負け⇒0枚)
- ④①~③をくり返し、どれだけ早く全種類のカードを集められるかを競う。
- ⑤まとめ(非常持ち出し品のアイデア紹介、家庭での非常持ち出し品の確認等)



※「スキヤキ・ジャンケン」というレクリエーションゲームを応用

《防災テーマ2：身近なもの・場所で身を守ることを考えるワーク》

個人

(1) 防災グッズ作り体験(小学校3年生以上) 45~60分

■ねらい:新聞紙やキッチンペーパーなど身近な物で防災グッズを作り、実際に使ってみる体験をすることで、災害時の身の守り方や日頃の備えの必要性について学ぶ。

(例) 新聞紙…スリッパ、コップ、食器、クッション キッチンペーパー…簡易マスク
ポリ袋、ゴミ袋…簡易レインコート 牛乳パック…スプーン など



集団

(2) 防災クッキングゲーム(小学校5年生以上) 45~60分 (新)

■ねらい:「サバメシ(サバイバルメシ)体験」の代案として、「限られたものの中でできることを考える」ワーク。非常時においても諦めず、工夫して乗り越えようとする発想力と意識を高める。

■内 容: ①少人数のグループに分かれる(4人程度)。

②「食材カード」を各グループごとに並べる(もしくはワークシート)。

③防災に関する3択クイズを出題し、グループごとに回答。

正解した場合は好きな食材カードを1枚選ぶ(不正解の場合は選べない)。

④ ③をくり返し、クイズが終わったらカードを回収。手に入れたカードを組み合わせ、「カセットコンロ1台で作れるメニュー」を考える(調味料、水、調理器具はあるものとして考える)。

⑤ まとめ(家庭でできるサバ飯レシピなど提供)



集団

(3) KYT 危険予知トレーニング(小学校3年生以上) 45~60分

■ねらい:児童が普段過ごしている校内の写真をもとに災害(地震)時に起こりうる危険を想定し、安全を確保するにはどうしたら良いか考える。他者と一緒に考えることで新たな気づきが得られること、互いに守り合うことができることを意識する。

■内 容: ①少人数グループに分かれ、校内写真を確認。

②地震発生時に危険だと思う箇所をマークする。

③その理由、どう危険回避するかを発表し共有。



集団

(4) 学校防災探検(防災チェックポイントラリー) 45分×2時間

- ねらい:学校内にある「自分の命を守る物」を意識し災害に関する理解を深めるとともに、仲間と協力しあいながら取り組むことでミニ防災訓練の機会とする。
- 内容: 防災クイズに回答しながら校内をまわり、最後に答え合わせ・まとめ(もしくは、消火器や防火扉など校内にある身を守るものを探しチェックする)



集団

(5) クロスロードゲーム (※小学校5年生以上)

- ねらい:災害時において分岐点(クロスロード)となるような状況に際したときを想定し、自分ならどうするかを考え、伝える訓練を行う。さらにお互いの考え方を受けとめあうことで多様な考え方があることに気づき、災害時においてもコミュニケーションが信頼関係を築く重要な土台であることを実感できる機会とする。また、災害には対処だけでなく備えが大切であることを伝え、学校や家庭生活での防災の意識づけをする。
- 内容: ①少人数グループ(4人まで)に分かれ、一人ひとりYES/NOカードを配る。
②「災害時に起こり得るクロスロード」を出題し、個人でYES/NOどちらの立場をとるか考え、決める。
③かけ声にあわせて全員でカードを出し、グループ内で一人ずつ理由を話す。
※個人ワークとして行う場合はカードを使わず、体育館などで「YES」「NO」それぞれの場所に移動してもらい、一人ひとりに理由を言うってもらう。
④まとめ(価値観は一人ひとり異なり、だからこそコミュニケーションが重要)



《防災テーマ3： 共助を考えるワーク》

集団

(1) 災害時のささえあい～困ったときはおたがいさま～(※小学校4年生以上)45～60分

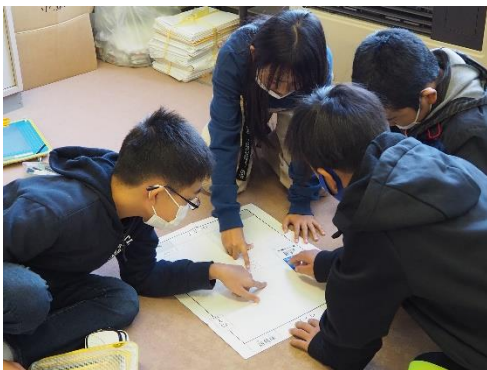
- ねらい：“災害弱者”となりやすい状況にある方(障がいや高齢、外国人等)の立場に立って、災害時に起こりうる困りごとを想定しながら、自分自身が相手のためにできることを考え、お互いに支え合って生きることの大切さを考える。
- 内容：①少人数のグループに分かれ、それぞれ想定する設定(高齢者等)を伝える。
②災害時、避難所で困ることをふせんに記入し貼る。
③発表・共有し、まとめ(小学生・中学生にも地域の一員としてできることがある)



集団

(2) 災害ひなん所トレーニング(※小学校5年生以上)45～60分

- ねらい：災害時の避難所を想定し、一人ひとりが避難者の特性をイメージしながら避難所での過ごし方について考える訓練を行う。他者に配慮しながらお互いの強みを活かし合える方法について話し合うことにより、「自分の身は自分で守る」ことを考える防災からさらに一步踏み出し、「他者とともに安心・安全に過ごす(共生)」ことを考える防災訓練のきっかけとする。
- 内容：①少人数のグループに分かれ、「体育館が避難所になり、参加者は自分が避難所の案内係をまかされた」ことを想定する。
②代表者が「避難者カード」を持ち、職員のコールでカードを1枚ずつ出す。
③それぞれの避難者の特性をイメージし、「避難所のどの場所にいたら安心して過ごせるか」を話し合って図面上に配置する。
④なぜその配置にしたか発表・共有、まとめ(コミュニケーションが重要)



※「避難所運営ゲーム(HUG)」を参考で作成したオリジナル版

